

当文教厚生委員会に付託された案件については、9月9日及び12日は午前9時30分から、18日は午後1時から、いずれも委員全員出席のもと委員会室において、慎重審査しましたので、その経過と結果をご報告申し上げます。

認定第1号中、当委員会に分割付託された案件については、補足説明の後、質疑に入り、主な質疑として、

福祉部所管分では、

地域福祉計画推進事業について、地域住民による助け合い組織であるお助け隊を増やす取り組みや、活動を推進するような取り組みは実施したか。と  
に対し、

ふくし井戸端会議の話し合いをきっかけに、運営等の相談に関して他地域での活動紹介を行い、より多くの地域において活動していただけるよう呼び掛けています。とのこと。

ふくし井戸端会議の平成30年度実績について、乙川中学校区が小学校区単位で実施できなかった理由はなぜか。とに対し、

ふくし井戸端会議は、地域福祉計画の中で令和元年度中に小学校区単位で実施する予定となっており、乙川中学校区は本年度中に小学校区単位で実施することとしたためです。とのこと。

亀崎地域総合福祉センター事業について、利用者数が3年で延べ2万人以上減っていることについてどう考えるか。とに対し、

定年後の就労、趣味の多様化などによって、利用者数が減ってきたものと考えています。今後は、施設の運営管理上の問題も含め、利用者アンケート調査などを行い、施設の方向性や運営委託の内容について検討していきます。とのこと。

引きこもり支援について、平成30年度中に実施した事業はあるか。また、どのような検討を行ったか。とに対し、

「くらしの相談室」で相談に応じ、就労準備支援事業の一環として「家族

向けのセミナー」を開催しました。また、本年度以降実施するセミナーや引きこもり家族教室、家族会の開催について検討しています。とのこと。

老人クラブ活動助成事業について、老人クラブの会員数が減少していることについてどのように考えているか。また、どのような対策を検討したか。とに対し、

会員の減少理由は、退職年齢の引き上げと、退職後の過ごし方の多様化が原因と考えています。

今後の対策として、役員の負担軽減や実施事業の縮小など、組織のスリム化について話し合いを重ねてきましたが、結論には至っていないため、引き続き協議していきます。とのこと。

次に、健康子ども部所管では

児童センター管理運営事業について、児童センターの老朽化に伴い、他施設との複合化に関する話し合いはあったか。とに対し、

児童センターのみならず、放課後児童クラブなど子どもの居場所を学校の中に集約していく方針であり、今後、具体的な議論を進めてまいります。とのこと。

放課後子ども教室推進事業について、対象を小学校1・2年生としたのはなぜか。異年齢交流推進のために対象年齢を拡大する考えはなかったか。とに対し、

本事業は、学校生活に慣れることと、地域との交流を目的としているため、対象者を1・2年生に限定しました。

異年齢交流の推進については、対象者を拡大したいという思いはありますが、教室や人員の確保に課題があり、現在の形になっています。とのこと。

本事業は参加希望者が多く抽選になっているが、男女比など抽選結果に偏りが生じることはなかったか。とに対し、

一定の基準を設けて抽選を行っており、バランスに配慮しています。とのこと。

民生委員・児童委員によるこんにちは赤ちゃん訪問事業について、本事業を民生委員が実施する目的は何か。また、行政と民生委員との連携体制はど

うなっているか。とに対し、

事業の目的は、乳児を持つ親に「地域の見守りがある。支えがある。」ことを理解してもらい、乳児家庭の孤立化を防ぎ、虐待防止や災害時など困ったときに地域で助けてもらうことにあります。

連携体制については、民生委員が訪問した家庭で気になることがあれば保健センターに連絡し、保健師が養育環境の把握を行い、その後の支援につなげています。とのこと。

半田市体育施設の利用状況について、利用者数が減少している施設については、状況把握や分析は行っているか。とに対し、

状況は把握しており、今後詳細に分析をして対応を検討してまいります。とのこと。

半田運動公園陸上競技場の平日の利用者増について、どのように取り組んだか。とに対し、

平日の団体利用誘致に取り組んでおり、引き続きPRを進めていきます。とのこと。

学校体育施設開放事業について、半田中学校及び亀崎中学校の部活動が、総合型地域スポーツクラブの非会員となり、今後は他の中学校でも同様の事態が予想されるが、スポーツクラブの経営や活動に支障を来たす可能性について検討したか。とに対し、

会員数が減少し、スポーツクラブの経営等に支障を来たす可能性については懸念しています。そこで、新たな事業展開など、他地域での成功事例を紹介するなどしてフォローしていきます。とのこと。

児童発達支援センターつくし学園地域支援事業について、相談員の配置体制はどうか。とに対し、

発達支援相談「あゆみ」にて受付を行っており、現在2名の相談員を配置しています。相談員は、発達支援に関する相談業務の経験者で臨床心理士等の資格を有しており、様々な研修に参加して対応力の向上を図っています。とのこと。

妊婦・産婦・乳幼児健康診査事業について、健診に来なかった方へはどの

ように対応しているか。とに対し、

保健師が電話等で連絡し、健診に来てもらうよう案内しています。とのこと。

保育園給食調理等業務委託事業について、保護者の声をどのように把握しているか。また、どのような意見があったか。とに対し、

保育参観で保護者にも給食を食べてもらい、感想を聞かせていただいています。温かい給食や、食育への配慮に高評価をいただいています。とのこと。

地域自殺対策緊急強化事業について、昨年度のゲートキーパー養成講座への参加者が少ないと思うがどうか。とに対し、

相談対応など、多くの市民に関わる方を重点に養成講座を行い、昨年度は、新入職員及び民生委員・児童委員の一部の方に受講していただきました。半田市役所の新入職員を除く職員は既に本講座を受講しており、今後は新入職員と民生委員・児童委員の皆様にご受講していただく予定です。とのこと。

家庭児童等相談事業について、子育てに関する悩みの相談窓口が分からないとの声を聞くことがあるが、このことについて把握しているか。また、どのような対応を検討したか。とに対し、

そのような声があることは把握しており、新たな相談の受付方法について検討中です。とのこと。

次に、教育部所管では、

学校生活支援員活用事業について、支援員の配置人数は各学校の生徒数から見て適切であるか。また、支援員を増やす要望はなかったか。とに対し、

生徒数に応じて、2名から4名の支援員を配置しています。生徒数が多く支援員が不足する場合には特別支援学級補助員にも、手伝っていただいています。校長会などからの増員の要望を受け、特別支援学級補助員を増員し、全体で対応しています。とのこと。

特別支援学級児童就学奨励事業について、本事業の目的は何か。とに対し、

特別な支援を要する児童がいる家庭では、そうでない家庭と比べて保護者

の就労時間が制約されることなどによる経済的な負担の軽減を目的としています。とのこと。

いじめ・不登校対策事業について、相談件数、不登校生徒児童数が増えていることについてどう考えるか。とに対し、

相談事業については、相談を受けるだけでなく、こちらからアプローチするようになったことと、一人の相談を複数回行うなど、手厚い支援を行うようになったことで増加したものと考えています。

不登校生徒児童数については、保護者の義務教育に対する考え方も変わっており、学校に通うことが全てではない、という考えを持たれる方が増えてきたことも要因の一つであると考えています。

本事業は、不登校生徒児童が学校以外に出掛けられる場所、学習できる場所を確保することにより、不登校になってしまう前に支援し、不登校を予防することを念頭に事業実施してきました。とのこと。

中学校の部活動について、土曜・日曜のうち、どちらかが部活動を実施できないことになっており、部活をやりたくてもできないという声を聞いているが、どのように考えているか。とに対し、

本市では、スポーツ庁が示した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に基づき決定しており、子供の健康を第一に考えた結果、現在の運用になっています。とのこと。

旧中埜家住宅保存管理事業について、旧中埜家住宅の活用についてはどのように検討したか。とに対し

旧中埜家住宅は、空調、照明、トイレなどが使用できないため、観光等に活用しにくい状況ですが、保存活用検討委員会を設置し検討してきました。

そこでは、他の観光施設と連携した周遊ルートの作成などが検討され、本年度も引き続き検討していきます。とのこと。

新学校給食センターの建設について、進捗状況はどうなっているか。とに対し、

候補地を選定することができ、今後は3か年実施計画の中で事業スケジュールを決定し、公表していく予定です。とのこと。

福祉文化会館管理運営事業について、スタインウェイピアノの活用状況は

どうか。とに対し、

昨年度は空調工事のため使用できない期間もありましたが、著名なピアニストに弾いてもらう企画や、市民や子どもたちに弾いてもらい体感していただく企画などを実施しました。とのこと。

福祉文化会館自主文化事業について、自主文化事業を廃止する理由は何か。とに対し、

自主文化事業は、福祉文化会館大ホールを利用して実施する事業でしたが、コスト面等で大きな課題があるため廃止しました。今後は、様々な場所や方法で幅広く開催していきます。とのこと。

新美南吉記念館について、市内からの来場者数が少ないことについて、どのように対応してきたか。とに対し、

ホームページのリニューアルや市民観覧券の配布等も行いましたが、市外からの来場者数は増えたものの、市内からの来場者は増加しませんでした。また、台風の影響で、市内から多くの来場者が来るイベントが中止になったことも要因だと考えています。とのことでした。

以上のような質疑を行った後、討論を省略し、一般会計と4件の特別会計を採決しました。

平成30年度半田市一般会計の歳入歳出決算のうち、当委員会に分割付託された案件、

平成30年度半田市学校給食特別会計歳入歳出決算、

平成30年度半田市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算、

平成30年度半田市介護保険事業特別会計歳入歳出決算、

平成30年度半田市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算、の5会計については、それぞれ採決した結果、いずれも委員全員をもって認定することに決定しました。

以上、ご報告申し上げます。